舟石川・船場散策案内

Funaishikawa Funaba Walk guidance

明るく、楽しく、元気良く、コミセンを活用して地元の散策をしましょう

舟石川・船場地区自治会「建設・環境部会」

舟石川・船場散策案内

舟石川・船場に住んで、先人達は何を残してくれたのでしょうか。谷、丘、湖の変化が、古代、中世、近世、現代の生活様式を、散策しながら、あれは、これは、何なのか、地域の再発見をしてみましょう。

記

1、舟石川コミセンは、駐車場も有りお手洗い休憩も出来て、便利な地元のコミュニティだから、基点と致しました。歩く事は健康の根幹と思いますので歩きましょう。
2、コースは、散策場所が即、判れば４～５時間程度になっていますが、自分の体力に合わせのんびりと１日コースとして、先人達を思いながら、散策しては如何でしょうか。
3　２つのコースを横断的に使うなり、見る角度を変えたりして歩くのも、又、楽しさが多く、自分なりのコース設定をして歩いてみましょう。
4、地形的に見る散策もしてみては如何ですか。舟石川、船場は、蛇のように曲がった田が、真崎浦、細浦、久慈川より延びています。先人達はそこに住み発展して行ったのか想像しながら歩いて観ましょう。
5、四季折々、自然の景観を楽しみながら、あの桜は、あの実は、紅葉は、野草はと立ち止って鑑賞しながら散策しては如何でしょうか。
6、歩道の無い道路では、車や、路面の凹凸や、障害物に注意して安全を確認しなが楽しい散策をしましょう。また、コースにはお手洗いが少ないので注意しましょう。

コース案内

【北コース】歩行距離７．５ｋｍ

舟石川コミセン－①宮後陶器窯跡－②高台墓地石仏御堂－③経典供養塔－④小宅氏の墓
⑤舟石川の天王様－⑥東海駅－⑦虚空蔵尊道標－⑧村松軌道跡（ガード下）
⑳村松軌道跡（百塚）－⑨忠魂碑－⑩水神堂竣功記念碑－⑪冨士社晩霞－⑫冨士神社
⑬金刀比羅神社－⑭Ｊ．Ｃ．Ｏ－⑮１里塚跡－⑯交通安全地蔵尊－⑰馬力神－⑱泉福寺
⑲権現堂溜－舟石川コミセン

【南コース】歩行距離９ｋｍ

舟石川コミセン－①水神宮－②水神堂溜池－③三角点－④笠松運動公園－⑤三角点
⑥六地蔵尊・十九夜念仏－⑦道標（馬頭観音）－㉑庚塚の石仏群－⑧宮前の石仏
⑨ソリ畑の石仏－⑩船場稲荷神社（⑪扁額）－⑫稲荷社杉風－⑬舟石川小学校
㉒ビオトープ－⑭東海文化センター－㉓ふれあいの森公園－⑮駅西第４児童公園
⑯小川家のヤブツバキ－⑰大太房墓地－⑱山の神－⑲六面地蔵尊－⑳馬力神
舟石川コミセン

施設名	電話番号	施設名	電話番号
舟石川コミセン	283-1951	中央公民館	282-3329
消防・救急	119	東海地区交番	287-0110

＊参考文献：東海村史通史編、民俗編。村の歴史と群像。東海村の石仏石塔。
石神城とその時代。東海村の今昔　志田諄一。東海村の歴史地名　志田諄一
＊発行：舟石川・船場地区自治会「建設・環境部会」　＊編集：照沼 秀男、水野 紀至
＊発行日：平成２２年７月３１日　平成２３年２月修正

舟石川コミセン 北 コース
至額田
至日立
三菱原子燃料（株）
（株）ジェー・シー・オー
62
6
二軒茶屋
舟石川
靳上
至水戸
舟石川コミセン
舟石川北
大山台
舟石川十字路
舟石川一区集会所
舟石川保育所
東海村役場
東海局
東海村役場入口
至留大橋
358
駅西第２公園
舟石川幼稚園
駅西第３公園
東海駅西口
舟石川二区集会所
東海駅入口
駅西第１公園
至大甕
東海橋
東海駅西口局
舟石川小入口
舟石川駅西
新村松路切
東海駅
駅西第４公園
駅東第２公園
舟石川小学校
舟石川橋
船場区集会所
営農センター
総合体育館
ＪＡひたちなか
東海会館
常磐線
至佐和
ふれあいの森公園
東海文化センター
東海南中
東海図書館
東海高校入口
中央公民館
東海高校
200m
1 宮後陶器窯跡
2 高台墓地
3 経典供養塔
4 小宅氏の墓
5 舟石川の天王様
6 東海駅
7 虚空蔵尊道標
8 村松軌道跡(ガード下)
9 忠魂碑（２基）
10 水神堂竣功記念碑
11 富士社晩霞
12 富士神社
13 金刀比羅神社
14 JCO 東海事業所
15 一里塚跡
16 交通安全地蔵尊
17 馬力神
18 泉福寺
19 権現堂溜
20 村松軌道跡（百塚）

① 《宮後陶器窯跡》

★宮後の斜面を利用した陶器窯跡である。
★那珂湊吾妻台の高台に反射炉を斉昭の指示で建設(1855)した。特に2000度に耐えるレンガ作りを藩内挙げて努力した。宮後陶器窯跡から、試作品のレンガが見つかっている。那珂湊では、飛田氏、大島氏瓦職人福井氏が各地の土を集めて、失敗に失敗を重ねてレンガ作りに成功した。
★照沼村の御山横目、照沼市郎左衛門の御用留に宮後の地でレンガ作りをした事が記載されている。

② 《高台墓地》石仏御堂

★舟石川1区集会所裏にある墓地の中程に御堂がある。
★その中に地蔵は享和2年戌11月吉日と他に２基有り無縁塔２基。馬力神３基・馬頭観音1基。如意輪観音宝暦３年酉３月15日の１基等が窮屈そうに入っている。
★昔は道端にあって、願いを込めて、お参りをしたと思う。鉄道が開通した頃、馬が列車に跳ねられ死亡したと言う馬力神の供養塔もあるようだ。

③ 《経典供養塔》高台墓地

★３基の供養塔が塚の上に建っている。
★法華経千部供養塔、安永二癸巳十月吉祥日(1773)河野三左衛門〇〇母雲光淡月信女。
★法華経千部供養塔、寛延五壬申年十一月吉祥日(1752)川野氏藤衛門破鏡了心信士雲光淡月信女。
★法華経千百部供養塔、天明八年宇戌申冬十一月吉辰、(1788)河野氏〇左衛門〇〇〇。
★法華経は日蓮宗の経典、南無妙法連華経、本山久蓮寺
★当時、河野家は水戸藩の庄屋であったと思われる。

④ 《小宅氏の墓》

★高台墓地、入口の坂の途中にある。
★小宅尚安は貞享２年(1685年)生まれ、先祖は芳賀禅可の支族で下野国に世家す。祖父より水戸藩に仕え、水府に住む。宝暦８年(1758)に７４歳で亡くなる。舟石川村に宝永３年から５２年間居住。(蓮経二部を写す。業の余暇、芭蕉翁の俳諧歌に共鳴する)
★読書を好み、郷医の傍ら「桃花園主人」「吟袋」という雅号で俳諧の世界で活躍した。
★碑文を撰文した名越南渓は彰考館総裁を勤めた水戸藩を代表する学者です。

五月雨や 如来迄ぞよ 傘壱本 (吟袋)

⑤《舟石川の天王様》『素鵞神社』

★明治末頃、疫病防止の為、神社を建立した。
★天王様は、産土神、農神、疫病を防ぐ行疫神として信仰され雨乞い、村休みといった共同祈願も行う。
★昔はＯ姓・Ｍ姓・Ｎ姓の三姓の家々が祭礼を行う。
★祭日は、６月１５日、１１月４日。
現在、拝殿内に神輿がある。天王様の日には若衆が神輿を某姓にて清め舟石川区内をまわった。
天王様は、農業の神様でキュウリ等の初モギリは天王様に供えた。

⑥《東海駅》

★明治３０年水戸、岩城開通。石神駅は３１年開設。当時は岩城海岸線と言った。その後常磐線となる。駅と言わず停車場。当時は、蒸気機関車で上下８本、上野まで５時間３０分要した。
上野―水戸間の運賃は３等で９９銭だった。
昭和３８年電化された。
★昭和３２年石神駅から東海駅に名称変更した。
（昭和３０年、石神村村松村合併）
★平成６年橋上駅が、村、ＪＲ東日本により完成した。エスカレータ、ステーションギャラリーがある。

⑦《虚空蔵尊道標》

★石神駅（東海駅）開通後、駅より村松虚空蔵尊まで徒歩で行く巡礼者への道標である。「従是東二十四丁」
★木造駅舎時代は駅の正面に松と共にあった。
★水戸市の岡崎徳次郎氏が大正４年８月に台座付の立派な碑を建立した。
★大正４年（1915）に天皇のご即位の年を記念して村内の青年団が角柱の小さな道標を建立した。
真崎、押延、須和間、竹瓦等に建立し現存している。
★東海村には１０基の道標がある。

⑧《村松軌道跡》ガード下

★大正１３年、私鉄鉄道開設ブームにのって、村松軌道（株）施工。
★石神駅西側より阿漕ヶ浦まで、蒸気機関車軌道で開通した。しかし乗客は少なく目論みは外れた。
★理由は、バスとの競争が激しく、阿漕停車場から、虚空蔵門まで離れているため利用者が少なかった。
★上記の間の国有林払い下げを申請しても認可されずその為昭和７年合理化の努力も空しく廃止となる。

⑨《忠魂碑》２基

★東側碑、高さ３．６ｍ、「我が日本は東亜の島国にして世界に冠絶するもの･･･」昭和２８年８月８日建立。裏側に戦死者名が刻示されている。日清戦争１名、日露戦争５名、日支戦争１２名、大東亜戦争１２２名、計１４０柱、昭和２８年９月、石神村。
★西側碑、高さ3.5m、茨城県知事　岩上二郎。昭和３５年９月建立。裏側に、満州事変日支事変大東亜戦争戦死者芳名、旧村松村関係、東海村。１８６柱周囲に桜、榊などを植樹した。

⑩《水神堂竣功記念碑》

★舟石川一区内の帯状の水田、約７haの土地改良事業の記念碑が冨士神社の東側１００ｍの所にある。
★事業は、駅前冨士山線都市計画の、道路工事に伴って実施された。
★田の形状は蛇のように曲がり冨士神社の脇より泉福寺前へ、又、舟石川コミセン南先より、二股になり一方は船場の三角点まで伸びて、他方は水神溜池まで伸びた田である。
★工期は２年を要し、昭和６１年に完成。

⑪《冨士社晩霞》東海十二景

★冨士神社の裏側入口の所にある。
★「薄紫の霞が、森厳の境内に漂い流れくる夕べ人声稀れに、想いは悠久の神の代に遡る」
★この場所より冨士神社の眺めは、森林に覆われ古墳の墳頂部に祀られた神社の風景が周囲の田園とマッチして素晴らしい。
★平成３年６月「東海十二景」に選定された。碑の題字は元村長、須藤富雄氏。
★平成２０年１２月東側よりの鳥居竣工。

⑫《冨士神社》木花開耶姫命　子授け、安産の神

★慶長15年(1610)冨士浅間神社より持参した尊像を祭神として、同地の古墳上に歓請したのが始まりという。(前方後円墳の墳頂部に鎮座、二軒茶屋古墳群)初めは「冨士権現」と称したが、後、今の名に改められた。(昔はＫ家の内神様であった)
★元禄１０年(1697)には内宿観音寺が社僧を勤めていた。「新編常陸風土記」によれば、社は、高さ１尺３寸程の小社であった。
★明治6年村社に列格。本殿拝殿を地域の人々で修復。
★昭和５６年、神輿が５０年数年ぶりに復活。

⑬《金刀比羅神社（大国主命）》
冨士神社の境内社

★冨士神社には、境内社が８社ある。（御堂は13基有り）
★特に、金刀比羅神社に対する宗敬は特に篤く、旧暦の３月１０日、８月１０日の春秋の大祭が行われている。神供は、するめ、赤飯、油げ、米、野菜、お神酒等を供える。縁結び神、大黒さま。
★境内社八幡宮は八幡太郎義家がＩ家に立ち寄りしたのを記念して祭り始めたと言われている。
★その他に、水、山、素鵞、加収山、稲荷、疱瘡守護神社等がある。

⑭《ＪＣＯ》東海事業所

★濃縮六フッ化ウランから二酸化ウラン粉末への転換加工を行っていたが平成11年9月３０日10時３５分に臨界事故発生。２名の殉職者を出す。周辺住民は舟石川コミセンへ一時避難した。
★その後、転換加工事業許可が取り消しとなり、現在は施設の保全管理等、事後処理を行っている。
★二度とこの様な事故を起さないよう願う。

⑮《一里塚跡》

★江戸時代、江戸日本橋を基点として一里毎に塚が作られた。
★二軒茶屋にも岩城相馬街道の１里塚が築かれた。
★五間四方の塚を道の両側に築いた。寛永１２年（1635）幕府は参勤交代を制度化したので、大名の江戸在住と往復とによって街道が整備され宿場が賑った。
★国道六号線の江戸時代の呼び名は水戸から北は岩城相馬街道と言った。陸前浜街道とは明治５年（1872）からである。大正9年4月1日より国道６号線となる。

⑯《交通安全地蔵尊》

★「茲に安置せるは交通安全延命地蔵尊なり事物に忍耐　強くして動きは、力有大地の如く静慮深く密なる事地蔵が如くなるを以て、その徳命講、美し延命地蔵と申す、近時交通事故、頻繁ならんとする時この地蔵尊を勧請し一つに事故を未然に防ぎ一つに六道を現当二世の利生を授け給え」
★昭和３８年７月建立。
茨城県勝田地区交通安全協会東海支部。
（六道とは地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天）

⑰《馬力神》

★東海駅富士山線と国道六号線のＴ字路脇にある。
★高さ1.5m程の白御影石の石塔である。
★建立は、昭和５年旧２月１７日。
　本郷周辺の６名の氏名が刻まれている。
★当時は、馬は田畑耕作、運搬等に重要であり、家族同様、家の中で飼っていた。そのため馬の健康や、供養のため馬力神の石塔を建て祀った。

⑱《泉福寺》

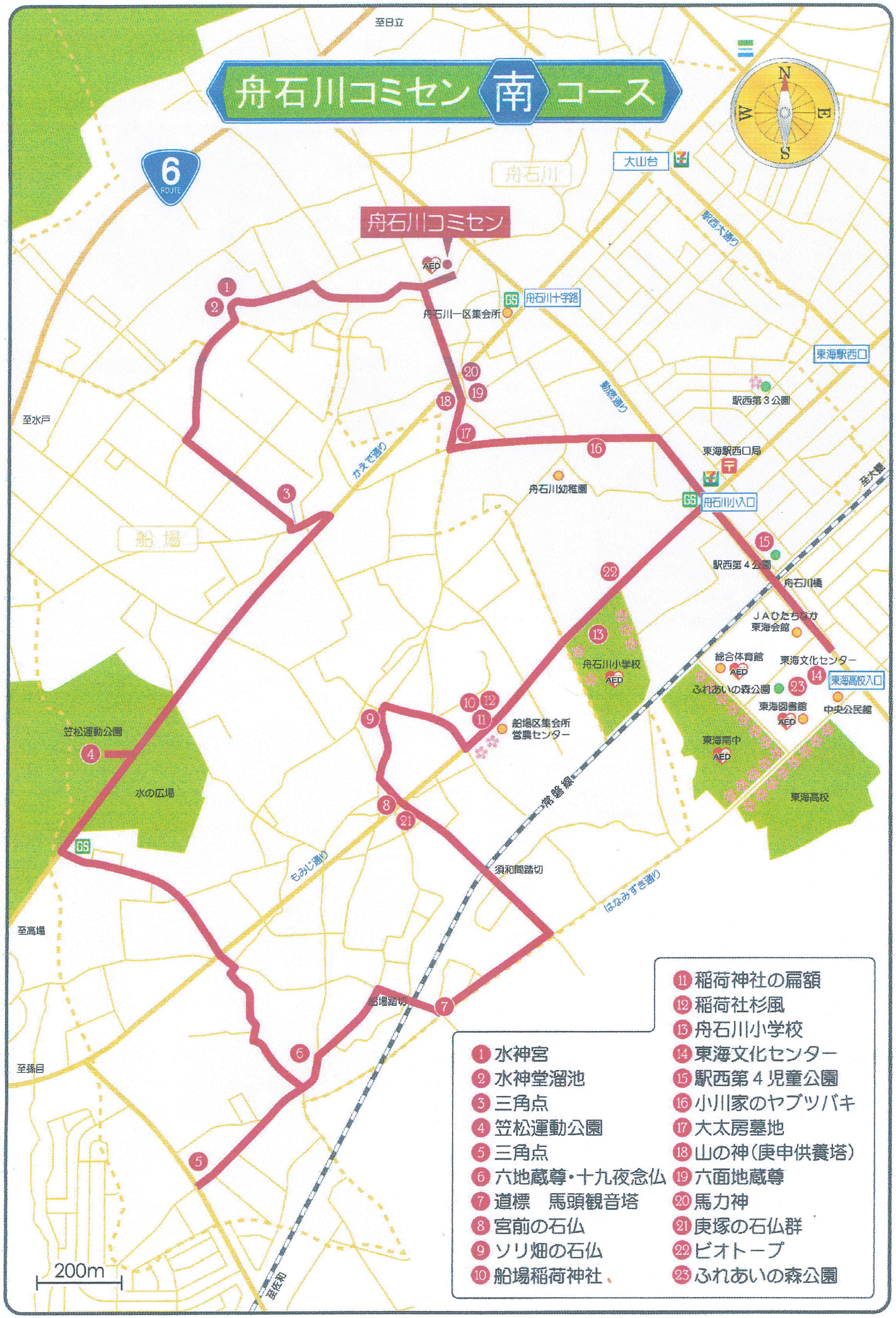
★創建は、寛文３年(1663)の600年前、平安時代、真言宗で六地蔵寺の末寺で、檀家２５０人の大寺であった。
★１732年藩命で曹洞宗へ。
★明治３年廃寺。明治元年、全国的に実施された廃仏毀釈によるものである。(この時まで石神外宿に在り)
★檀家の尽力により舟石川に復興する.（大正１４年）
★平成１６年、本殿、客殿を新築する。
★石神山宝積院泉福寺という。

⑲《権現堂溜》

★国道６号線より、三菱原子燃料株式会社
正門入口左側に溜池がある。
★水神堂土地改良事業時に手が加わっていないため自然の状態で残っている。
★周囲はクズで覆われ、池の中にはヒメガマが沢山自生している。
★古老の話では、魚釣りをして遊んだという。

⑳《村松軌道跡》百塚

★大正15年4月25日、石神－阿漕間開通する。
　しかし阿漕停車場が虚空蔵尊門前から離れていたこと、乗合自動車との競合が激しかったこと、また資金難，蒸気機関車の修繕費用等で昭和７年９月廃業する。
★軌道は石神停車場西口から西へ少し行き、方向を北へ百塚へ行きそこより方向を東へ、常磐線の下を通る。写真は、その百塚で東に曲る所が斜面を削除して勾配を緩斜面にしてあると思われる所が現存している。
　（東海１丁目２番地）


舟石川コミセン 南 コース
6 ROUTE
舟石川コミセン
至日立
大山台
舟石川
駅西大通り
舟石川十字路
舟石川一区集会所
東海駅西口
駅西第３公園
動線通り
至水戸
かえで通り
東海駅西口局
舟石川幼稚園
舟石川小入口
至大橋
船場
駅西第４公園
舟石川橋
ＪＡひたちなか
東海会館
舟石川小学校
総合体育館
東海文化センター
東海高校入口
ふれあいの森公園
東海図書館
中央公民館
船場区集会所
営農センター
笠松運動公園
東海南中
水の広場
常磐線
東海高校
もみじ通り
須和間踏切
はなみずき通り
至高場
船場踏切
至孫目
至佐和
200m
1 水神宮
2 水神堂溜池
3 三角点
4 笠松運動公園
5 三角点
6 六地蔵尊・十九夜念仏
7 道標　馬頭観音塔
8 宮前の石仏
9 ソリ畑の石仏
10 船場稲荷神社
11 稲荷神社の扁額
12 稲荷社杉風
13 舟石川小学校
14 東海文化センター
15 駅西第４児童公園
16 小川家のヤブツバキ
17 大太房墓地
18 山の神（庚申供養塔）
19 六面地蔵尊
20 馬力神
21 庚塚の石仏群
22 ビオトープ
23 ふれあいの森公園

① 《水神宮》

★舟石川コミセンを南西５００ｍ程にある。
★水神宮は高さ５０ｃｍ幅１８ｃｍ奥行き１５ｃｍ屋根幅３８ｃｍあり、経年による風化も少ない。
★寛政４年(1792)４月吉日、水神宮と刻まれている。
★寛政４年は長い間雨が降らないで田畑の水が枯れた年であった。当時雨乞いの為神社を祭り水神堂水源に願い込めて祀ったものと思われる。
（この年は水戸の千波湖が干し上ったと言われている）
★山の神同様、農業及び生活に大切な守り神である。

② 《水神堂溜池》

★溜池は幅１０ｍ程で奥に１２０ｍ程の湿地帯で水神堂田畑の水源地であった。現在も湧き水が出ていて湿地帯となっている。
★湿地帯にサワギキョウが生殖している。山地の湿地に群生する多年草で、東海村の低地に生育しているのは珍しい。茎が直立し、茎上部で枝分かれする。葉は蜜で、細かい鋸歯がある。茎の先に濃紫色の花を多数つける。花期は８～９月。
★この周辺を親水公園にしてはどうか検討している。

③ 《三角点》

★場所はマラソン道路より少し入った船場小字後田の田の脇にある。
★土地の海抜高度を示す標識、及び三角測量の基点に用いる。(この地は海抜３２．６ｍである)
★一般には独立した山頂にある。
★国土交通省地理院管理の掲示がある。
★道路から１００ｍ程農道を入るので足元に注意して歩きましょう。

④ 《笠松運動公園》

★昭和３６年工業団地用地として買収され、昭和４３年県が運動公園用地として取得、昭和４９年１０月第２９回国民体育大会が開催された。
★船場の土地は、庭球場付近からマラソン道路の東側。地権者の協力が大きかった。又、周辺道路及び施設も完備され、地域活性化に大きく貢献した。
★運動公園内は散歩する人、スポーツをする人、四季折々で多くの人が利用している。

（写真は庭球場の１部と案内板）

⑤《三角点》

★場所は船場の南端で、さわ野杜住宅前道路脇の林の中にある。(船場字八枚割)
★土地の海抜高度を示す標識、及び、三角測量の基点として用いる。(この地は海抜33.0mである。)
★一般には、山頂等見通しの良い場所にある。
★国土交通省地理院が管理している。
★平地林の中で、道路より少し入った所にある。
★足元に注意して歩いて下さい。

⑥《六地蔵尊・十九夜念仏》船場前組共同墓地

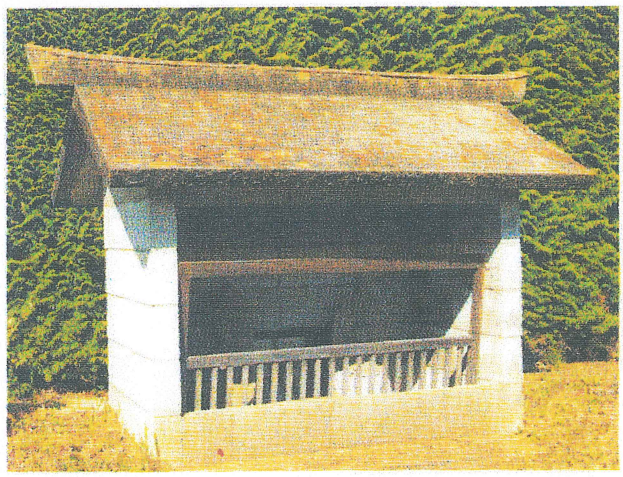
★墓地中央の銅板葺の御堂の中に安置されている。昔野地に有った為風化が大きい。お盆には涎掛けが掛けられる。高さは５０ｃｍ前後。地蔵は六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天上）に落ちて苦しむ者を救済する仏である。
★右側に地蔵尊(1790)と子安観音(十九夜念仏)がある
★この２基の石仏は船場の庚塚にあったものを御堂内に納めた。
★乏しいにも拘らず建立し、村の平和、子供を救済、長寿、安産、育児、豊作を願った。

⑦《道標》馬頭観音塔

★菅谷、佐和宿方面から村松村内に入り、やがて畑の中の小さな塚の所に二基の馬頭観音が立っている。
★左側の石塔は弘化元年(1844)建立の道標である
「右 すハま」「左 村松」十三参りの頃、列をなして通った道であると言われている。
★平成１５年石塔に台座が付けられた。

⑧《宮前の石仏》

★左側は如意輪観音である。
この石仏は古く明和４年(1767)、今から２４２年前のものである(如意輪観音は車輪がどこにでも自由に転がるように意のままに現れ六道の苦しみを取り去る菩薩である)
★右側は地蔵尊である。
この石仏も古く文化２年(1805)の地蔵尊である。
旅人や子供を守ると信じてお参りする。
★ブロックの御堂に安置されている。



⑨《ソリ畑の石仏》

★右側の石仏は上部が欠けている。
三夜供養塔とあるが二十の文字が無くなって、元は二十三夜供養塔である。建立時代も永二年とあるが嘉永二年(1849)巳酉九月吉日ではないかと思われる。
★隣が比較的新しい昭和１６年１月１３日建立の二十三夜供養塔である。
★左側は馬力神で明治２１年旧３月建立の石塔である。
★その隣に小さな地蔵塔が立っている。

⑩《船場稲荷神社》倉稲魂命「五穀豊穣」

★京都市伏見区の稲荷山にまつわる神。
★食物の主役は穀物、穀物の中心は稲である。元禄６年(1693)光圀が村内の２社を１社にする。
★神の使いがキツネ、２月初午が稲荷さんの日赤飯、油あげを奉納する。(キツネは稲荷社の使い)
★１１月３日は大祭の日、有志の方々や高齢者を招き神事を行なう。菊花展も行なわれ参拝者で賑わいを見せる。
★かつては、陰暦２月の初午祭は盛大に行なわれ参拝者で賑やかな１日をくり広げた。
★境内には、大杉、山、天満、熊野神社等がある。

⑪《稲荷神社の扁額》

★稲荷神社正面の「稲荷神社」扁額は、高橋諸随の書蹟で有る。彼は、水戸藩士で桜田門外の変事件の領袖金子孫二郎の４男であり、同じく桜田事件の関係者の　高橋多一郎の養子となった。
★高橋多一郎は、石神外宿の山横目黒沢覚衛門の息子覚蔵を伴い京都へ中仙道を西上したが、切腹した。覚蔵は水戸に戻り、天狗党として活躍した。
★この扁額は、尊王攘夷派の名残である。

⑫《稲荷社杉風》東海十二景

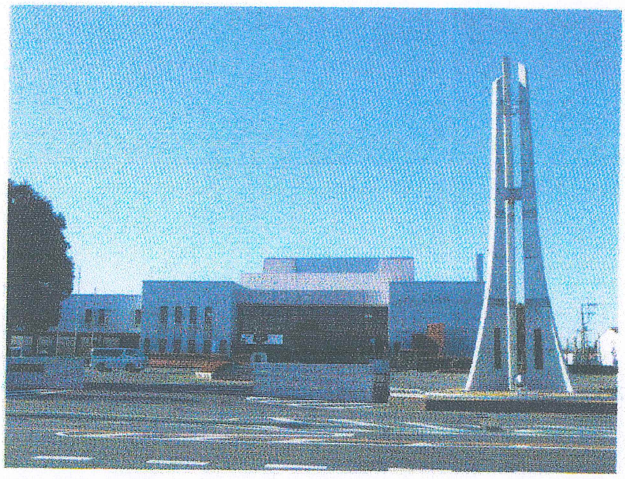
★稲荷神社の東側、竹瓦船場線脇に碑が立っている。
★平成３年６月に東海十二景に指定された。
★老杉の木立は、こんもりと社殿を囲み、梢は風を鳴らしている。深々とした静寂感があたりを包み、神の啓示を待つかのようである。
★題字は元村長の須藤富雄氏である

⑬《舟石川小学校》

★石神・中丸小の児童数が多くなり、舟石川地区からは、バスにより登下校していた。
★昭和５６年４月開校する。
★平成２２年度の生徒数は６１１名に達し、村内の小学校児童増加率トップである。
★めざす児童像は
「心豊かで、たくましく行動出来る子」
「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」
部活動も活発で、特に吹奏楽は県内トップレベルである。

⑭《東海文化センター》村の文教地区

★昭和４７年、船場地区の村有地（富士古河跡地）の４万坪の利用計画が諮問、答申された。昭和５１年富士電機寮を改修青年の家、昭和５７年に中央公民館へ
★昭和５２年、村民会館開館、その後６２年に東海文化センターとなった。東海村の文教地区となる。
★昭和５２年県立東海高校が開校。
★昭和５３年東海南中学校が開校。
★昭和５７年総合体育館が建設。
★昭和６０年村立図書館が開館。



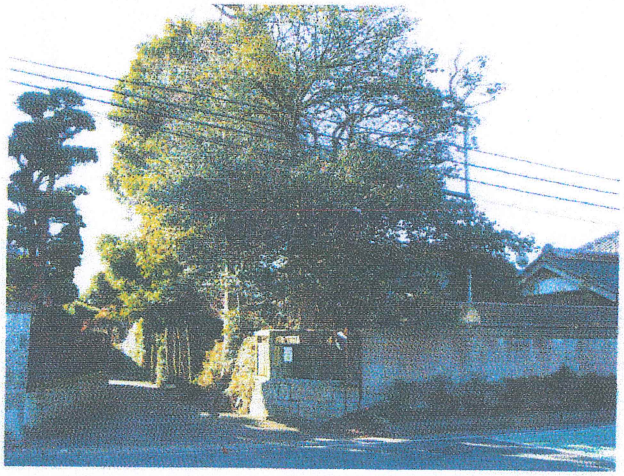
⑮《駅西第４児童公園》

★東海村駅西都市計画で４ヶ所の児童公園ができた。この公園は大きく遊戯施設も他より多く外周はアンツーカーとなっていて走ったり、散歩したりして多数の方が利用している。
★この地は旧船場地区であったが平成１５年６月３０日より村の住居表示変更により、舟石川駅西一丁目十四番地となる。

⑯《小川家のヤブツバキ》

★平成元年に村の天然記念物に指定された。
★椿科の常緑高木で、葉は光沢があり春に赤色系の五片の花が咲き、秋に熟実する。日本列島全土に分布するが種子から油が取れ化粧品、食用に使用される。材質は堅く器具などに多く使われている。
★樹齢約３５０年、高さ１２ｍ。

「訂正」立枯の為 平成９年３月２５日解除



⑰《大太房墓地》不動明王他

★入口左側に御堂内に６基の石仏有。不動明王はいかりを顔に現し右手に剣左手に縄を持ち炎を背にしている。災害を除き、財産増える功徳有り。手前に地蔵尊(明治４２年３月)、中央の頭部なしの地蔵２体有り、後方の物は馬頭観音と思われる。左側に地蔵尊（天保６年１１月２８日）十九夜尊（如意輪観音）（宝暦１３年１０月１９日）が祀られている。

★墓地の外側に、十字路に馬頭観世音２基が立っている。大正時代小川氏と岩崎氏が馬を供養したものである。

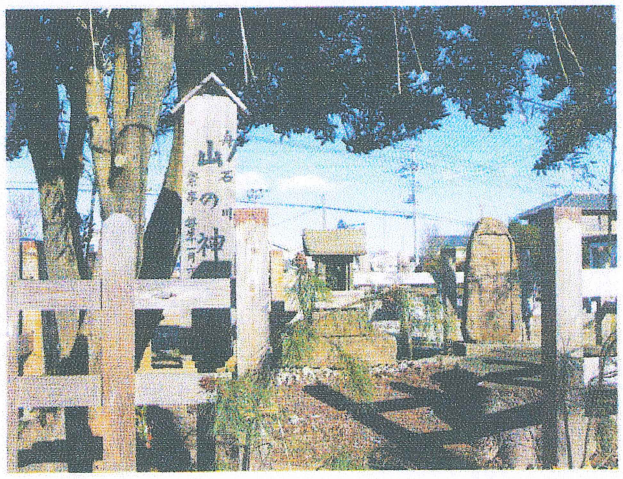
⑱《山の神》庚申供養塔

★正月６日に山開きの際に山の神に参拝し御幣と塩引きを供えた後、山の薪を拾い、其の薪でご飯を炊いて神仏に供えた。(現在も１月６日、祭礼実施)

★昔雨乞いの際にも神輿を１度山の神の祭りの場に担いていって参拝した。

★庚申供養塔、寛政１２年(1800)１０月吉日講中
二つに割れていたが、補修されている。

★庚申の日に夜通し念仏をとないて。健康長寿を願う。



⑲《六面地蔵尊》十九夜念仏碑

★六地蔵は１面毎に、形の違う地蔵が刻まれている。
六道の衆生を救う六種の地蔵を言う。
壇陀地蔵(地獄)、宝珠地蔵(餓鬼)、宝印地蔵(畜生)
持地地蔵(修羅)、除蓋障地蔵(人)、日光地蔵(天)

★六地蔵は子育て、安産の神、女性の信仰を集めている。
小石・金銭等を上げてお参りをする。

★六地蔵は延享３年(1746)１０月と古い地蔵尊である。
下部が地中に埋もれている。

★六地蔵の左側に十九夜念仏の如意輪観音が安置されている。

⑳《馬力神》

★２．５ｍ程の高さを持つ白御影石の石塔である。

★建立は大正５年8月１０日７名の有志により建てた。

★馬力神は馬の供養、健康を願って建てられた。

★牛馬を持つ人達が、その安全を祈って建立したのが、馬力神、馬頭観音、馬櫪神である。馬の供養に立派な石碑を建てるほど家族同様の愛情があった。

㉑《庚塚の石仏群》

右より
★コンクリートに刻まれた判読難の供養塔
★猿田彦大神、講中人１６人氏名が刻字されている。建立不明、庚申の神ともいう、猿は山の神、田は田の神で豊作祈願を願う。
★馬頭観世音、昭和３年旧正月７日(右側)
昭和３年旧１２月２２日死(左側)
(常磐線で列車と衝突死した馬の供養も兼ねている)
★庚申塔、嘉永元年(1848)１２月吉日、講中８人
★馬頭観世音、天保６年未年(1835)、２月吉日

㉒《ビオトープ》

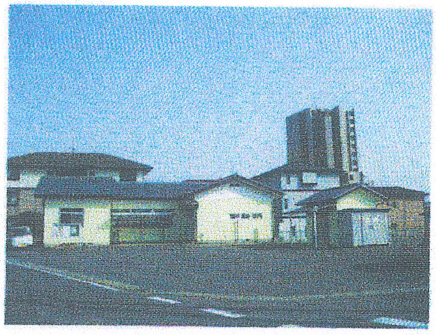
★自然公園。皆で楽しく遊べる公園にしよう。
★舟石川・船場を中心にした親父の会が造営した、舟石川小学校北側を流れる小川を活用した自然公園である。小学校より舟石川幼稚園近くまでの間、森林に覆われ、春は新緑、夏はホタルが多く見られます。
★要所に木橋、櫓台等設置されていますが確認してから利用しましょう。

㉓《ふれあいの森公園》

★文化センター、図書館、南中、体育館に囲まれた所に公園がある。
★公園内には、彫刻作品が展示されている。
①津野充作　ＷＩＮＤ，風、方向、呼吸。
②梅原正夫作　トロイメライ
③綿引道郎作　詩人　思想の時
④松本光作　風の家族　その他３件あり。
★木立も良く、ハナミズキ、コブシ、シモクレン、コナラ
ナツツバキ、ヤマモミジ、クスノキ、シャラノキ等

舟石川・船場地区自治会集会所

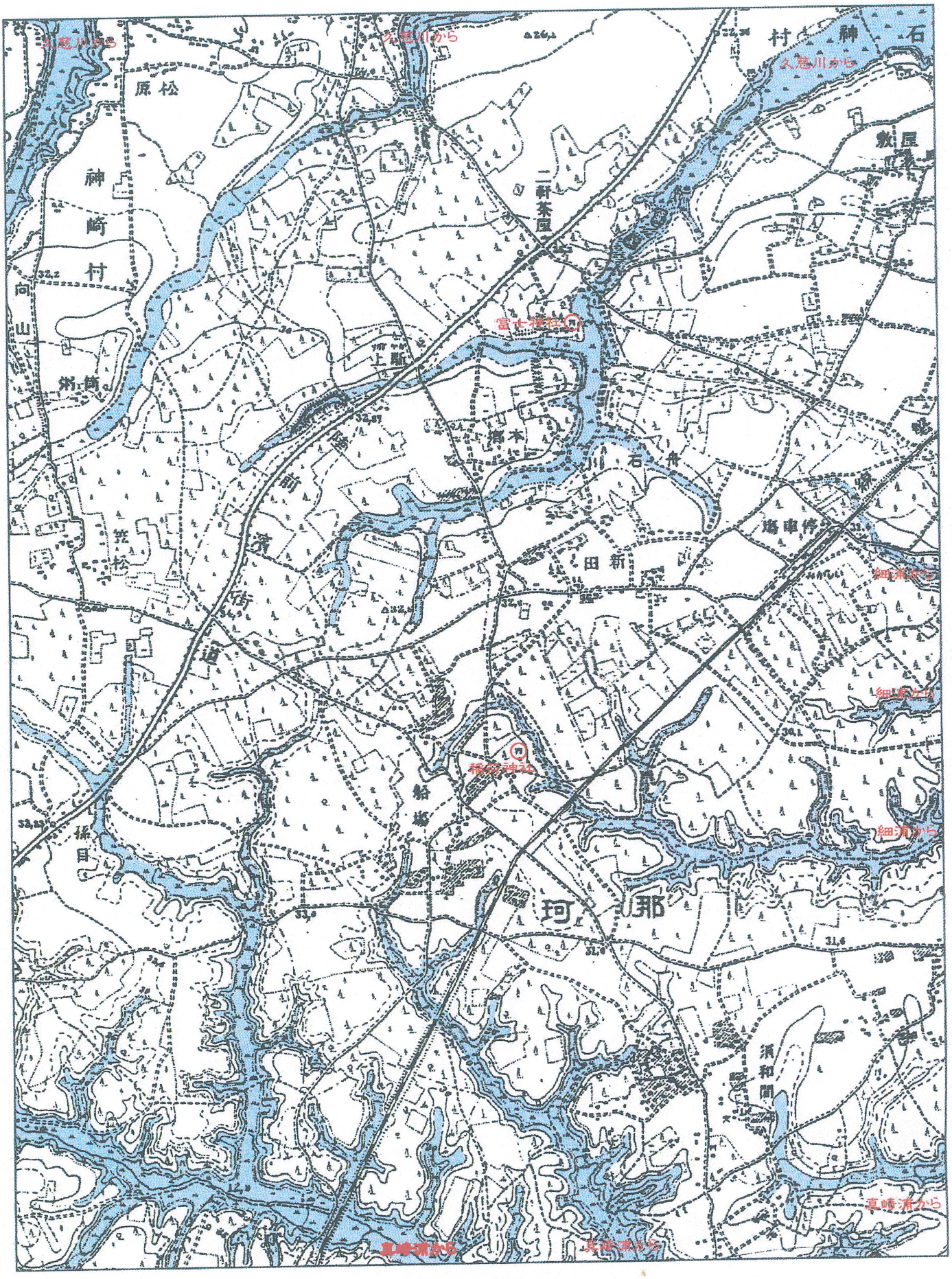
舟石川一区集会所



舟石川二区集会所

船場区集会所、営農センター

明治38年の舟石川・船場



（大日本帝国陸地測量部図より）

舟石川・船場の略年表

西暦（年号）	主なことがら
20万年前	久慈川が石神外宿・内宿・白方の大地のあたりを流れる
5000年前	海面が今より2～3m高くなり、世界中の低地が再度海になる（南高野貝塚）
500頃	二軒茶屋古墳群造成される
791（延暦10年）	坂上田村麿、蝦夷征伐に際し、東海村を通る
1063（康平6年）	泉福寺、石神外宿に開創、真言宗、六地蔵寺の末寺
1083（永保3年）	源義家、この地を通る、（古老の話）
1400頃（応永年間）	船場村より分割され石川村誕生
1582～1598（天正年間）	両村とも以前は久慈郡に属す。以後は那珂郡に属す
1606（慶長11年）	この時代より１里塚建設が、主な街道で作られた（二軒茶屋一里塚跡）
1610（慶長15年）	富士神社、古墳上に勧請した
1641（寛永18年）	水戸領検地で船場石川村となる
1693（元禄6年）	船場に2社あった稲荷神社を統合して1社にした　（光圀）
1702（元禄15年）	元禄郷帳で舟石川村となる
1746（延亨3年）	舟石川字台に六面地蔵尊建立
1770（明和6年）	小宅氏の墓建立、高台墓地、郷医、俳諧、52年間舟石川に居住
1752、1773、1788	高台墓地に河野氏、川野氏の経典供養塔建立
1792（寛政4年）	水神宮建立、百姓達の水の確保
1855（安政2年）	水戸藩9代藩主斉昭の命で舟石川宮後に窯を建設（レンガ製造）
1864（元治元年）	天狗・諸生の乱で船場村より4名、舟石川村より3名挙兵
1870（明治3年）	泉福寺、廃仏稀釈で廃寺となる、曹洞宗
1873（明治6年）	石神小学校創立（石神外宿・本米崎・向山・船場）
1889（明治22年）	町村合併、村松村内に船場（戸数４０）石神村内に舟石川（戸数４５）
1898（明治31年）	石神停車場（駅）開設、岩城海岸線（常磐線）　石川要之介氏尽力
1906（明治39年）	船場信用購買販売組合設立、昭和10年組合解散
1912（明治45年）頃	素鵞神社（舟石川天王様）建立、
1915（大正4年）	虚空蔵尊道標建立　水戸市、岡崎徳次郎（現在、東海駅西口）
1924（大正13年）	村松軌道建設工事開始、石神より阿漕間、　昭和8年廃線
1925（大正14年）	泉福寺、舟石川に復興する
1932（昭和7年）	石神郵便局（石神外宿）が舟石川に移転。昭和32年東海郵便局
1947（昭和22年）	船場公民館開館
1947（昭和22年）	舟石川が1区、2区に分割、その後昭和54年2区より3区分割、平成5年駅東が中丸区へ分割
1953（昭和28年）	忠魂碑建立（石神村）昭和35年東海村（村松）建立
1955（昭和30年）	石神・村松村合併、東海村誕生、東海村人口11,583人
1957（昭和32年）	石神駅が東海駅と改名される
1958（昭和33年）	原研道路、原研前より二軒茶屋間　幅１０mの砂利道で竣工
1961（昭和36年）	12月東海駅構内にて、急行いわて号脱線転覆事故
1973（昭和48年）	舟石川幼稚園建設　　舟石川保育所昭和50年開所
1974（昭和49年）	都市計画街路「駆け上り一原燃線」完成
1974（昭和49年）	第29回茨城国体開催、（昭和36年船場地区の土地が買収される）
1977（昭和52年）	東海駅西区画整理事務所開設
1977（昭和52年）	東海高校開校、村民会館開館（昭和62年東海文化センター）
1977（昭和53年）	東海南中学校開校
1981（昭和56年）	舟石川小学校開校
1986（昭和61年）	水神堂竣功記念碑建立（7ヘクタールの土地改良事業）
1991（平成3年）	駅西都市計画第二工区事業開始
1994（平成6年）	東海駅橋上駅竣工、エスカレーター、エレベーター付
1997（平成9年）	舟石川の根本時之介氏（元村長）名誉村民の称号授与
1998（平成10年）	舟石川コミセン竣工
1999（平成11年）	9月30日、ＪＣＯ臨界事故発生
2003（平成15年）	舟石川地区の東海駅西地区の地名変更、新町名が舟石川駅西と改正
2006（平成18年）	舟石川２区北側地区の地名変更、新町名が東海と改正

舟石川・船場の小字図

二軒茶屋
往還西
富士山前
富士山
洞下
宮後
塚田
亀の甲
駒上
西荒工
本郷
上谷原
合ノ久保
加登
松下
大山台
新田
烏内
還西
太夫前
大久保
台
正神堂
中道
大太房
後田
栄畑
久慈海道
蓼沼
三町野
新田前
割余シ
後山
後久保
三条野
新毛
加登田
宮利畑
宮下
横谷津
井ノ下
稲荷山
山中
西ノ妻
釜久保
遠間
宮前
深田
庚塚
道下
徳用
中曽根
石幸
西田
八枚割
舟ぼっこ
石伏
小松原
勝木田
御所内
石橋
石橋向
海田
長堀
富士の腰
東海村の小字図より

舟石川・船場の小字名

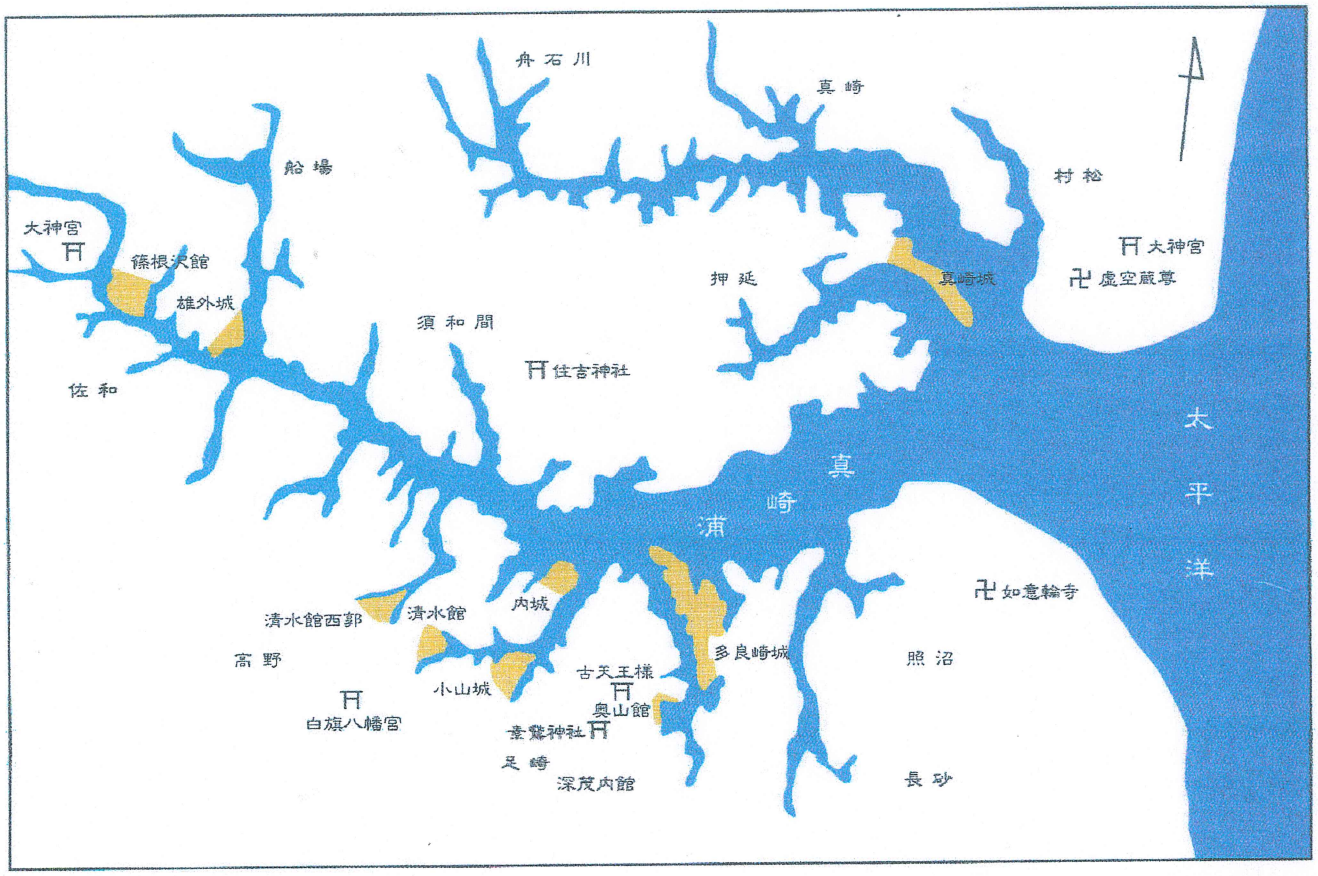
先人達は古代より、その時代の地形・環境・状況を考慮して、小字名を残していると思われます。下記の小字名以外にも、舟石川には、本郷・新田・駆上り・二軒茶屋等の地名が残されています。現在の各自治会の班名（常会）も小字等の地名を使用している班は半数以上あります。下記に現在残されている小字名を記すと共に何時までもこの小字名が語り継がれる事を願います。

＊：班名使用の小字名　◎

舟石川				船場			
NO	＊	小字名	読み	NO	＊	小字名	読み
1	◎	上谷原	かみやわら	1		道下	どうした
2		松下	まつした	2		西田	にしだ
3	◎	宮後	みやうしろ	3		庚塚	かのえつか
4	◎	大山台	おおやまだい	4		徳用	とくよう
5	◎	石橋	いしばし	5	◎	宮前	みやまえ
6		海田	うみだ	6		曾利畑	そりはた
7		塚田	つかだ	7	◎	新毛	しんげ
8		三町野	さんちょうの	8		西ノ妻	にしのつま
9		洞下	どうした	9		宮下	みやした
10	◎	往還西	おおかんにし	10		山中	やまなか
11		西荒工	にしあらく	11		横谷津	よこやつ
12		合ノ久保	あいのくぼ	12		石伏	いしぶし
13	◎	台	だい	13		八枚割	はちまいわり
14	◎	烏内	からすうち	14		舟ぼっこ	ふなぼっこ
15		大久保美	おおくぼみ	15	◎	遠間	とうま
16		中道	なかみち	16		上谷原	かみやわら
17	◎	蓼沼	たてぬま	17	◎	久慈海道	くじかいどう
18		長堀	ながほり	18		後山	うしろやま
19		冨士山前	ふじやままえ	19	◎	三条野	さんじょうの
20		権現堂	ごんげんどう	20		新田前	しんでんまえ
21		割余シ	わりあまし	21		稲荷山	いなりやま
22		石橋向	いしばしむかい	22	◎	栄畑	さかえばた
23		加登	かと	23		割余シ	わりあまし
24	◎	冨士山	ふじやま	24		釜久保	かまくぼ
25		遠西	とうにし	25		後田	うしろだ
26		太夫前	だゆうまえ	26		加登田	かとだ
27		正神堂	しょうじんどう	27		後久保	うしろくぼ
28		大太房	だいたぼう	28		石幸	いしこう
29	◎	新田前	しんでんまえ	29		中曽根	なかぞね
30		水神堂	すいじんどう	30		井ノ下	いのした
31	◎	亀の甲＊	かめのこう	31		深田	ふかだ

＊亀の甲は大山台と白方区の富士の腰に属す

舟石川・船場の地名



（参考資料、東海村の歴史地名　志田諄一）

【舟石川】

船場と同様、細浦の奥地（旧東海病院あたり）まで船が入っていたと思われる。
また久慈川の支流が竹瓦方面より水神堂まで小さな沢となって伸びていた。
この地は石川といった。

舟石川と船場は一つの村で船場村であった。応永年（1400）頃から船場より分割されて石川村及び船場石川村となり、元禄時代（1688～1703）頃より現在の舟石川（村）となった。

【船場】

船場は、真崎浦が上図のように伸びていて東海高校、東海南中学校の下あたりが舟付場で船だまりの場所だったと思われる。現在は田となっている。この事から船場の地名になったと思う

（参考資料、東海村史）